

IV いきいきと働く

大項目		成果・課題	施策番号	概要版より抜き出した進捗状況等
IV-1	高付加価値産業の創出	主な成果・実績等	(1) ①	北九州TLOの特許出願数、ライセンス契約件数が着実に増加するなど、学研都市を中心とした研究開発の成果が製品化・実用化に貢献している。
			(1) ③	インキュベーション施設(オフィス)の提供や経営支援を行っており、卒業企業数は2011年度までに85社となった。
			(3) ①	中小企業支援センターを総合窓口として、新技術・新製品開発、経営改革、販路開拓などの相談や支援を行っている。相談件数は、2011年度で1,172件と目標(1,000件)を上回っている。利用者の満足度は高く9割を超えている。
		主な課題等	(2) ①	次の成長産業として期待されている「航空機産業」や、内需拡大型産業をターゲットとする戦略的な誘致活動が課題である。
			(3) ③	地元企業の海外業務向け人材の確保・育成や、地元企業の海外マーケティング力の養成に向けた支援を強化することが課題である。
IV-2	商業・サービス産業・農林水産業の振興	主な成果・実績等	(1) ②	商店街への支援メニュー(商店街活性化計画づくり支援事業、商店街賑わいづくり支援事業、中小企業団体共同施設等設置補助事業)の活用件数は、2011年度は29件と前年度に比べ増加している。
			(1) ③	黒崎地区商業ベンチャー育成事業については、計6名が新規開業を果たし、また、黒崎商店街のチャレンジショップについても、2009年度に入居した6名のうち5名が独立開業している。
			(2) ①	社会的問題をビジネスとして解決するソーシャルビジネスの振興を図るための見本市(ソーシャルビジネスメッセ)を開催し、事業者間の連携促進や情報交換、市民への啓発などを行っている。見本市の参加人数は、2011年度は700人と前年度から大幅に増加している。
			(3) ①	農林水産業の基盤整備や生産活動への支援などを行っている。単位農地面積当たりの農業産出額は増加し、水産物の年間漁獲量も概ね維持されている。
		主な課題等	(1) ①	都心部は老朽化したビルを多く抱えており、その更新が進んでいない。業務機能の強化のみならず、都市のイメージアップや安全性の観点からも、都心部の老朽化した建物の建て替え、リノベーション、コンバージョン等の促進が課題である。
			(1) ②	郊外型の大型商業施設が増加するなか、商店街が競争力を維持・向上させるためにはハード、ソフト両面の改善が必要である。
IV-3	多様なニーズに対応した人材育成と就業支援の推進	主な成果・実績等	(1) ①	若者の採用を予定している企業に対して人材の確保、定着・育成に関するアドバイザーの派遣や、新卒採用啓発セミナーの開催などを行っている。企業向けのセミナーや相談指導は、2008年度以降、70%の企業が満足していると回答している。
			(1) ③	介護サービス従事者を対象に、離職率の低減と介護サービスの質の向上やスキルアップを図るため多様なテーマの研修を実施している。
			(2) ①	若者ワークプラザ北九州を小倉と黒崎に設置し、就業相談や職業紹介、各種就職関連情報の提供、就職支援セミナーなどによる求職者と企業のマッチングを行うとともに、企業訪問による求人の開拓を行っている。
		主な課題等	(2) ②	就職や再就職を目指す女性のキャリアアップ・キャリア形成を図り、女性の就業、活躍を支援していくことが課題である。
(2) ②	厳しい雇用環境が続くなかで、中高年齢者への就業支援の強化が課題である。			
IV-4	にぎわいづくりの推進	主な成果・実績等	(2) ①	北九州市ミュージアム構想推進事業では、2012年2月から地域資源を発信する専用サイトとして「北九州市 時と風の博物館」の運用を開始し、2012年12月1日現在において、約250名の参加者登録、約650点の地域資源登録がなされており、着実に取り組みが浸透しつつある。
			(2) ②	北九州市に対する誇りや愛着を持ち、それを発信していく人の輪を広げることを目的として、2008年度に、北九州市応援団を発足させた。応援団員は目標数を上回り、年々増加している。
			(3) ④	観光パンフレットを統合した新しい観光ガイドブックの制作、観光市民大学開催への支援、観光案内所の開業時間延長とサービス機能の充実、また、We Love小倉協議会と北九州市立大学地域創生学群による「まちなかコンシェルジュ事業」などが好評を得ている。
		主な課題等	(1) ①	シビックプライド(市民がまちに誇りを持ち、主体的にまちづくりに携わってみたい、関与してみたいと思う意識や意欲)の醸成が大きな課題である。
			(3) ②	観光動態については、近年の観光客数はほぼ横ばいで推移しているが、外国人観光客は、東日本大震災の影響により減少しており、2011年は過去最高であった2007年の半分以下となっている。